

## 第31回日本癌病態治療研究会を開催して

第31回日本癌病態治療研究会当番世話人  
徳島大学消化器・移植外科学 教授

島田 光生

第31回日本癌病態治療研究会事務局長  
徳島大学消化器・移植外科学 助教

西 正暁

令和4年6月23日(木)・24日(金)、アオアヲナルトリゾート(徳島県鳴門市)において「第31回日本癌病態治療研究会(The annual meeting of Japanese Society of strategies for Cancer Research and Therapy)」を開催させていただきました。本研究会は、1991年に初代磯野可一会長らを中心に立ち上げられ、癌の病態や治療法に関する調査、研究を行い、その病態や癌患者の臓器の悪性度にあった治療、宿主側の生体反応にあった治療法の確立を目指し大きく発展してきました。歴史ある本研究会の開催という貴重な機会を与えていただきました松原理事長はじめ会員の先生方に心より感謝申し上げます。

近年、若い医師が専門医を目指して懸命に臨床医学の研鑽を積む姿を見ると、将来の臨床医学の発展にとって心強いことであると感じます。その一方で、本研究会の中心的な活動である基礎医学についても、同様に情熱を注ぐことができ、国際的な競争の中でわが国の癌研究を一層発展させていけるような環境を整備することの必要性を常々強く感じておりました。そこで今回、「New Normal時代の癌病態研究」をテーマとさせていただき、癌病態に関する本邦・世界の医療全体の発展へと寄与できるような研究成果を発表する場とすべく準備をさせていただきました。皆さまの臨床、研究の一助となるようシンポジウムとしま





※  
第31回  
日本癌病態治療研究会  
<https://society-form.com/jsct31/>

しては①腫瘍微小環境研究、②バイオマーカー研究、③がん免疫療法の基礎と臨床、④癌に対する低侵襲治療、⑤癌と腸内細菌、⑥消化器癌に対する Conversion Surgery とし、各領域のトップランナーの先生方に加えて、新進気鋭の若手研究者が新しい時代を迎えた癌病態研究と最新の知見について活発なご討議をいただきました。

ホームページ※ではリモート阿波踊りにおける“New Normal 時代への転換点”を表現いたしました。徳島伝統の阿波踊りも COVID-19 により、2 年間、中止・縮小を余儀なくされ、ようやく昨年度に一部が開催されました。阿波徳島の地で数百年続く阿波踊りが、New Normal 時代に対応する形で変貌している様子をお感じいただけたかと存じます。

COVID-19 により、第29回研究会は誌上開催となり、第30回は WEB 開催となりました。第31回は 3 年ぶりの現地開催での総会となり、70 題以上の演題のご登録いただき、ハイブリッド開催にも関わらず上級演題では 8 割以上の演者が現地発表で活発なご討議をいただき、盛況に会を終えるこ

とができました。これもひとえに貴重な研究成果を発表してくださった演者の皆さまと活発な質疑・応答を引き出してくださった座長の皆さまのお陰と感謝いたしております。熱い議論をしてくださいました聴衆の皆さまへも厚く御礼申し上げます。

今後も本研究会を盛り上げていけるように、最善を尽くす所存でございます。より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

